

2013年度リエゾンオフィス事業報告

I. 研究支援体制の強化による産官学連携活動の活性化

自然科学系・人文社会系共に、研究支援体制の強化を図り、下記事業に取り組んだ。

① 自然科学系シーズを活用した産業活性化策の強化

- 「自然科学系産官学連携研究紹介集」(2010年3月発行分)を各種イベント・会議で配布することにより、積極的に本学教員のシーズを公開・普及させた。
- 新技術説明会(2014年2月28日開催)を東京で行い、企業との連携を図った。

② 人文社会系シーズを活用した地域活性化策の強化および文理融合プロジェクトの促進

- 2013年11月に「人文社会系・文理融合系産官学連携研究紹介集」(改訂版)を発行し、最新の研究成果を積極的に外部に公開した。
- 文理融合系のシーズについて、ニューズレター等により積極的に外部公開を行った。

③ 受託研究、共同研究、学術指導、奨学寄付金の受入

④ 文部科学省、経済産業省などの公的研究資金の獲得 —新規採択—

機関名	事業名
総務省	戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE)
文部科学省	国家課題対応型研究開発推進事業 光・量子融合連携研究開発プログラム
	地域産学官連携科学技術振興事業費補助金
	イノベーションシステム整備事業 地域イノベーション戦略支援プログラム
JST	戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発 (ALCA) 特別重点技術領域
	戦略的創造研究推進事業 個人型研究 (さきがけ)
	研究成果最適展開支援プログラム A-STEP フィージビリティスタディ・ステージ (探索タイプ、シーズ顕在化タイプ)
	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発

—継続採択—

機関名	事業名
総務省	戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE)
文部科学省	国家課題対応型研究開発推進事業 脳科学研究戦略推進プログラム
	国家課題対応型研究開発推進事業 再生医療実現拠点ネットワークプログラム
JST	地域産学官連携科学技術振興事業費補助金
	イノベーションシステム整備事業 地域イノベーション戦略支援プログラム
	研究成果最適展開支援プログラム A-STEP フィージビリティスタディ・ステージ (探索タイプ、シーズ顕在化タイプ)
	研究成果最適展開支援プログラム 本格研究開発ステージ (ハイリスク挑戦タイプ)

JST	戦略的創造研究推進事業 チーム型研究 (CREST)
	戦略的創造研究推進事業 個人型研究 (さきがけ)
	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発
	戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発 (ALCA)
	知財活用促進ハイウェイ「大学特許価値向上支援」
NEDO	固体高分子形燃料電池実用化推進技術開発／基盤技術開発／低白金化技術
	安全・低コスト大規模蓄電システム技術開発／共通基盤研究
環境省	子どもの健康と環境に関する全国調査
厚生労働省	国際医療研究開発費
	長寿医療研究開発費

⑤ 大型プロジェクトの管理・運営

経費について、適切に執行・管理を行い、検査にも対応した。2013年度の大型プロジェクトについて、以下に記す。

機関名	事業名
文部科学省	国家課題対応型研究開発推進事業 脳科学研究戦略推進プログラム 脳科学研究科 教授 井原 康夫
	国家課題対応型研究開発推進事業 再生医療実現拠点ネットワークプログラム 生命医科学部 助教 奥村 直毅
JST	戦略的創造研究推進事業 チーム型研究 (CREST) 脳科学研究科 教授 井原 康夫 脳科学研究科 教授 高橋 智幸
	戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発 (ALCA) 理工学部 教授 盛満 正嗣
	戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発 (ALCA) 理工学部 教授 稲葉 稔
	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発 社会学部 教授 立木 茂雄
	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発 ビジネス研究科 准教授 戸谷 圭子
	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発 社会学部 教授 立木 茂雄
NEDO	安全・低コスト大規模蓄電システム技術開発／共通基盤研究 理工学部 教授 稲葉 稔 理工学部 教授 長岡 直人
	固体高分子形燃料電池実用化推進技術開発／基盤技術開発／低白金化技術 理工学部 教授 稲葉 稔
	固体高分子形燃料電池実用化推進技術開発／基盤技術開発／低白金化技術 理工学部 教授 稲葉 稔

⑥ 寄付教育研究プロジェクト（寄付講座を除く）の受入

プロジェクト名	
継続	糖化ストレス研究センター
	炎症・再生医療研究センター
	アンチエイジングリサーチセンター
	赤ちゃん学研究センター
	天然物基盤創薬研究センター

- ⑦ リサーチ・アドミニストレーションセンター（URA センター）との連携による産学連携活動の強化
2013 年度新たに着任した URA、ARA や 2013 年 11 月に開設されたリサーチ・アドミニストレーションセンター（URA センター）と共に産官学連携の強化に努めた。

II. 起業支援事業

① 大学連携型起業家育成施設（D-egg）の運営

- 入居率：80%前後を保った。
- 入居者支援：D-egg カフェを継続的に実施。新たに D-egg カクテルと題したセミナーも実施し、入居者と外部支援者や大学関係者等との連携強化を計った。
- PR 活動：パンフレットを作成。D-egg 通信発刊やホームページでの PR を積極化し、対外的アピールを強化。
- 経営支援：販路開拓、営業支援を中心としながら、事業化に向けた経営支援を継続。
- 地域支援機関との連携：京田辺市、京田辺市商工会、山城振興局、けいはんなと定期的打ち合わせを設定し、連携を更に強化。

② 学生ベンチャークラブ（DVT）の支援

- 下記の開催、運営（外部機関と共同、外部資金の活用）
 - ・ビジネスプラン作成合宿（9 月 11 日～13 日）
 - ・ビジネスプラン講座（学生対象）
 - ビジネスプラン作成講座（10 月 5 日、19 日）
 - プランブラッシュアップ講座（12 月 8 日）
 - ・同志社ベンチャーフェスティバル（11 月 17 日）
 - ・ビジネスプランコンテスト（1 月 11 日）

③ ベンチャーファンドによるベンチャー企業育成支援

ベンチャー育成支援のため、各種ベンチャーファンドを継続的に保持。

④ 社会起業家養成塾開催協力

- 「社会起業家養成塾」（7 月～11 月）
社会起業家を支援する取り組みにて 2 社を輩出。

III. 社会や地域との連携強化

地域に根ざした大学をめざし、社会との連携強化に取り組んだ。

① 産学連携交流会・講演会の企画・運営

開催日	イベント名
2013 年 10 月 22 日	ビジネスフェア in 京たなべ
2013 年 10 月 29 日	同志社大学・けいはんな産学交流会～産学連携マッチング交流会～
2014 年 1 月 22 日	同志社大学リエゾンフェア

② 外部との連携会議（定期開催）

連携機関	会議名
京都府 京都市 京都商工会議所 など	京都産学公連携機構会議
近畿経済産業局	産学官連携推進実務者会議
関西文化学術研究都市推進機構	産学公連携推進会議 けいはんなエコシティ推進会議 など

IV. 研究成果の社会への還元や知的財産の情報公開

効果的な情報公開を目指すとともに、積極的な研究成果の社会への還元に取り組んだ。

① 出展（研究成果の発信の強化）

- 京都産学公連携フォーラム
 - イノベーション・ジャパン 2013
 - 〈ナント〉元気企業マッチングフェア 2013（南都銀行）
 - ビジネス・エンカレッジ・フェア 2013（池田泉州銀行）
 - 異業種京都まつり
 - けいはんなビジネスメッセ
 - 京都ビジネス交流フェア
 - けいはんな情報通信フェア
- など、計 26 件に出展。

② 研究にかかわる情報の発信および収集

- ホームページコンテンツの活用
- ニュースレター発行（年 3 回）
- メールマガジン発行（月 1～2 回）
- マスコミへの情報提供（各種新聞記事掲載）

③ 東京地区での情報発信、産学連携事業

開催日	イベント名
2013 年 8 月 29、30 日	イノベーション・ジャパン 2013
2014 年 2 月 28 日	関西 8 私大 新技術説明会

④ 大学間連携によるシンポジウム開催

開催日	イベント名	連携大学
2013 年 11 月 25 日	京都産学公連携フォーラム	京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学、京都府立医科大学、京都府立大学、立命館大学、龍谷大学
2013 年 12 月 10 日	龍谷大学・同志社大学 ジョイントセミナー	龍谷大学
2013 年 12 月 13 日	関東・関西 10 私大 産学連携 フォーラム	東京電機大学、慶應義塾大学、中央大学、日本大学、明治大学、早稲田大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学
2014 年 2 月 28 日	関西 8 私大 新技術説明会	関西学院大学、関西大学、甲南大学、龍谷大学、大阪産業大学、京都産業大学、近畿大学

⑤ 学会への情報発信

本学内で開催された学会・シンポジウム等にて情報発信を行ない、新たなルートでの産学連携の可能性を探った。

V. 外部ネットワークとの連携強化

① NPO 法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク共同運営事業

➤ 「社会起業家養成塾」(7月～11月)

社会起業家を支援する取り組みにて2社を輩出。

➤ 各種セミナーの開催

「産学連携を活用したマネジメントセミナー」(2013年6月12日開催)(共催:株式会社池田泉州銀行)など、年間を通じて複数回実施。

② 同志社校友会大阪支部産官学部会(LCC)、東大阪リエゾンクローバー倶楽部(HLC)との連携
定例会に参加し、双方向の情報共有を密に行った。

VI. その他

① 学研都市キャンパスの活用

➤ 動作解析実験室等の管理と推進を行った。

② クリエイション・コア東大阪の活用

「第10回龍谷大学×同志社大学ジョイントセミナー」を開催。クリエイション・コア内の「MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)」で開催される各種イベントの参加を通じて、産学連携の可能性を探った。

③ 首都圏を拠点とする関係機関との連携強化

平成25年度「横浜全国広域産学連携推進会議」に参加し、参加機関との情報交換を行なった。

④ 国際産学連携活動への取り組みに向けた体制連携を検討

国際産学連携活動としては、下記の取組みを行った。

➤ 知的財産センターと連携し、海外機関との契約について、調整及び契約締結。

➤ 海外機関からの研究助成金や成果有体物の受入等。

⑤ 地方公共団体等における政策形成への参画

各地方公共団体等への委員の派遣要請等、各地方公共団体等からの依頼については、積極的に受け入れた。

以 上